



## トランザクション

---

June 29, 2007 OL-12434-01-J

この章では、Cisco BTS 10200 ソフトスイッチの次のトランザクション コマンドについて説明します。

- Transaction Queue
- Queue Throttle



(注)

---

この章では、トークン名の前にアスタリスクがある場合、トークンが必須であることを意味します。トークンにアスタリスクがない場合は省略可能です。

---

## Transaction Queue

Transaction Queue (transaction-queue) テーブルでは、ユーザが transaction-queue 内のエントリを表示および削除できます (エントリが存在する場合)。Transaction Queue テーブルは、データベースに対するアップデート、および Call Agent と Feature Server の共有メモリに対するアップデートを追跡します。Element Management System (EMS; 要素管理システム)、Call Agent (CA)、または Feature Server (FS) がエラー状態でない限り、エントリはわずか数秒しか transaction-queue に保持されません。エラー状態の場合、Transaction Queue テーブルは、後のアップデートのためにエントリを保持します。

テーブル名 : TRANSACTION-QUEUE

テーブルの包含領域 : OAMP

### コマンドタイプ

show および delete

### 例

```
show transaction-queue target=CA146
delete transaction-queue target=CA146
```



### 注意

「ciscouser」権限のあるオペレータだけが delete transaction-queue コマンドを実行できます。その他のユーザはこのコマンドを実行できません。サポートが必要な場合は Cisco Technical Assistance Center をご利用いただくことができます。

delete transaction-queue コマンドによって、データベースの一貫性が損なわれることがあります。使用の必要性を確認するには、Cisco Technical Assistance Center にお問い合わせください。


### 使用上のガイドライン

主キー トークン : transaction-id、target

削除のルール : transaction-queue が存在する必要があります。target を指定する必要があります。

### シンタックスの説明

ACTIVE-TARGET	システムにより生成。target がアクティブ状態であるかスタンバイ状態であるかを指定します。  CHAR(1) : Y/N (デフォルトは Y)。 Y : target はアクティブ状態です。 N : target はスタンバイ状態です。
SEQUENCE-NUM	システムにより生成。トランザクションの文の順序を数値で表現したものの。  INTEGER : 0 ~ nnn (nnn は、キュー内のトランザクションの番号を示します)。
STATEMENT	システムにより生成。トランザクションに適用されている Oracle 文および DBM SQL 文。  VARCHAR(4000)。

AUTO-REFRESH	<p>キャッシュ データを画面に表示するかどうかを指定します。show コマンドに限り有効です。</p> <p>CHAR(1) : Y/N (デフォルトは Y)。</p> <p>Y : データベースに最新のデータを問い合わせます。</p> <p>N : キャッシュ データが使用不能な場合にだけ、データベースに最新のデータを問い合わせます。</p>
DISPLAY	<p>画面に表示するトークン情報を指定します。show コマンドに限り有効です。</p> <p>VARCHAR(1024) : 1 ~ 1024 (デフォルトでは、すべてのトークンが表示されます)。許可される値は、このコマンドで表示できる有効なトークンです。カンマで区切ると、複数のトークンを入力できます。</p>
LIMIT	<p>画面に表示する行の数を指定します。show コマンドに限り有効です。</p> <p>INTEGER : 1 ~ 100000000 (デフォルトは 100000000)。</p> <p> (注) 実際に表示される行の最大数は、ソフトウェア制限のため、100000000 より少ないのが現状です。</p>
ORDER	<p>データを画面にソート順で表示するかどうかを指定します。show コマンドに限り有効です。</p> <p>VARCHAR(1024) : 1 ~ 1024 (デフォルトでは、すべての行が表示されます)。許可される値は、このコマンドで表示できる有効なトークンです。カンマで区切ると、複数のトークンを入力できます。</p>
START-ROW	<p>画面の特定の行からデータの表示を開始するように指定します。show コマンドに限り有効です。</p> <p>INTEGER : 1 ~ 100000000 (デフォルトは 1)。</p>

---

STATUS	トランザクションのステータス。
	VARCHAR(32) : 1 ~ 32 の ASCII 文字。許可される値は次のとおりです。
	PENDING : トランザクションは実行のためにキューに入っています。
	ERROR : TARGET からエラー応答を受け取りました。または要求が OAM からタイムアウトしました。
	DB_DUPLICATE
	DB_NOT_FOUND
	DB_INVALID_ARGS
	DB_INVALID_DATA
	DB_OPERATION_FAIL
	DB_SET_FAIL
	DB_OUT_OF_MEMORY
	DB_INVALID_INDEX
	DB_FREE_INDEX
	DB_SET_VALIDATE_FAIL
	ERR_INIT_DEFAULT_BUFFERS
	ERR_MALLOC_FAILED
	ERR_UPDATE_INFO_ARR_OVERFLOW
	ERR_INTERNAL_ERROR
	ERR_SQL_UPDATE_INFO_ARR_OVERFLOW
	ERR_INVALID_COL_TYPE
	ERR_INVALID_TBL_ID
	ERR_INVALID_ACTION_TYPE
	ERR_UNKOWN_TABLE_ID
	ERR_INVALID_TABLE_NAME
	ERR_COL_VALUE_LIST_MISMATCH
	ERR_PRIMARY_KEY_SQL_UPDATE
	ERR_INVALID_COL_NAME
	ERR_TOO_MANY_FOREIGN_KEYS
	ERR_INVALID_ENUM_NAME
	ERR_U8_VALUE_OUT_OF_RANGE
	ERR_U16_VALUE_OUT_OF_RANGE
	GENERIC OAM ERROR
	ERR_NO_REPLY
	OAM_DUPLICATE_TRANSACTION

---

TARGET	主キー。トランザクションが存在する CA、FS、または EMS の ID。 VARCHAR(32) : 1 ~ 32 の ASCII 文字。たとえば、CA <sup>nnn</sup> 、FSPTC <sup>nnn</sup> 、または FSAI <sup>nnnn</sup> (nnn はターゲットの数値 ID)。
TERMINAL-ID	ユーザの一意な端末 ID。 VARCHAR2(32) : 1 ~ 32 の ASCII 文字。
TIMESTAMP	システムにより生成。トランザクションの日時。 DATE および TIME : YYYY-MM-DD HH:MM:SS。
TRANSACTION-ID	システムにより生成。主キー。トランザクション番号。トランザクションの数値。この値は 900,000,000,000 より大きい任意の数値です。実際の値は、EMS の現在のシステム時間、およびコマンドが実行された時間によって決まります。 INTEGER : 12 桁の数値。
USER-ID	一意なユーザ ID。 VARCHAR(32) : 1 ~ 32 の ASCII 文字。

## Queue Throttle

Queue Throttle (queue-throttle) テーブルは、トランザクション キューイングに使用される最大ダウンロード キャパシティを保持します。このテーブルでは、show コマンドに限り有効です。

テーブル名 : QUEUE-THROTTLE

テーブルの包含領域 : OAMP

コマンドタイプ show

例 `show queue-throttle`



(注) show コマンドに対する応答は、「The Queuing Manager is operating within normal parameters. Queuing Manager activity may be suspended using the block session command.」です。

## トランザクション スロットリング

この項では、次の事柄について説明します。

- トランザクション スロットリング機能をイネーブルまたはディセーブルにするためのコマンド
- レポートの収集/レポーティング間隔を設定する方法
- トランザクション スロットリングのしきい値を変更する方法

### イネーブル化またはディセーブル化

トランザクション スロットリングをイネーブルまたはディセーブルにするには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** Cisco BTS 10200 ソフトスイッチで、`bts.properties` ファイルに移動します。

```
/opt/ems/etc/bts.properties
```

**ステップ 2** `throttleEnable` トークンを変更します。スロットリングをイネーブルにするには、`throttleEnable` を Y に設定します。スロットリングをディセーブルにするには、`throttleEnable` を N に設定します。

```
throttleEnable=Y
```

**ステップ 3** プラットフォームを再起動します。

### 収集 / レポーティング間隔の設定

収集 / レポーティング間隔を設定すると、レポートがデータベースに入力される頻度が決まります。

テーブル名 : CONFIG-INTERVAL

テーブルの包含領域 : OAMP

**コマンドタイプ** show および change

**例**

```
show config-interval;
change config-interval config-type=throttle;interval=15;
```

**使用上のガイドライン** 主キー トークン : なし。

シンタックスの説明	CONFIG-TYPE	change コマンドには必須です。設定タイプを指定します。  VARCHAR(16) : 1 ~ 16 の ASCII 文字。許可される値は THROTTLE です。
	INTERVAL	change コマンドには必須です。レポートのために情報が収集される頻度(分単位)を指定します。  VARCHAR(6) : 1 ~ 6 の数値。値は 5 の倍数である必要があります。

## スロットルしきい値の変更またはディセーブル化

Command Throttle (command-throttle) コマンドは、CLI、MNT、FTP、CORBA、SNMP、または SOAP インターフェイスからのスロットルしきい値（実行されるコマンド数）を変更します。

テーブル名 : COMMAND-THROTTLE

テーブルの包含領域 : OAMP

**コマンドタイプ** show および change

**例**

```
show command-throttle-threshold;
change command-throttle-threshold session-type=CORBA; threshold=2000;
change command-throttle-threshold session=CORBA; enable=N;
```

**使用上のガイドライン** 主キー トークン : なし。

シンタックスの説明	ENABLE	コマンド スロットリングをイネーブルにするかどうかを指定します。  CHAR(1) : N/Y (デフォルトは Y)。
	SESSION-TYPE	change コマンドには必須です。イネーブルまたはディセーブルにするセッションのタイプを指定します。  VARCHAR(16) : 1 ~ 16 の ASCII 文字。許可される値は次のとおりです。  CLI  MNT  FTP  CORBA  SNMP  SOAP
	THRESHOLD	アラームをトリガーする前に許可されるコマンドの最大数を指定します。  INTEGER(8) : 1 ~ 8 の数値。

